

明屋海岸

中ノ島の北端にあるのは明屋海岸として知られる 1 キロにわたる断崖と風化した小島だ。断崖の明るい赤のスコリア（火山岩）は、マグマが空気中に高く噴き出した 280 万年前にできたものだ。マグマが空気に触れることで酸化し、岩は鮮やかな赤となった。千年以上かけて風と波が多気孔の岩を侵食し、穴が開いて門のような形となった岩や、他にも幻想的な形の岩が海岸線に沿って見られる。

地元の神話では、明屋海岸沿いにみられる不思議な形の岩は神が創り出したものだと説明されている。西ノ島の女神、比奈麻治比賣命は、ここで自分の子どもを産んだと言われている。その後、お産の時に使った道具が岩になった。海岸沿いの岩には「屏風岩」や「たらい岩」といった名前がついている。小島のひとつにある穴は、海岸から見るときれいなハート型をしている。

明屋海岸の小さなレクリエーションエリアは、トイレとピクニックテーブルがあるパーキングエリアから海岸へと続く舗装道路のふもと（一番下）にある。予約をするとキャンプ場を利用でき、地元のバックパッカーに人気の場所である。沖合の水は澄んでいるため、海の巻貝の一種であるサザエ採取に適した場所である。